様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 27 日現在

機関番号：８７１０６
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：２００９～２０１０
課題番号：２１７２０２９７
研究課題名（和文）
五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究
研究課題名（英文）
The Sixteen Kingdoms and the Northern-Wei Regime seen from excavated figurines
研究代表者
市元　塁（ICHIMOTO RUI）
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部企画課特別展室・研究員
研究者番号：４０４１６５５８

研究成果の概要（和文）：
五胡十六国時代から北魏時代は、文化芸術や諸制度が著しく成熟した時代であり、重要な研究領域である。しかし，当該時期の出土資料は数が限られていたため，考古学的研究は遅れていた。
今回の研究では，近年になって発掘報告が相次いだ十六国時期と認定された出土陶俑について，研究を行った。その結果，4 世紀末葉に画期がみられる事を明らかにした。その画期は、この時期の、北方諸政権の自立機運の高まりと関係していることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：
Even though the period spanning from the Sixteen Kingdoms to the Northern Wei Dynasty, under which various forms of arts, culture and social systems reached full growth, is definitely a rich and important research area, the insufficient number of finds of the period has been denying a proper development of an archaeological study.
This study, dealing with numerous recently excavated pottery figurines that have been proven of the period, has clearly demonstrated the presence of a ground-breaking époque towards the end of the 4th century among these figurines; and it has been certified that this époque simultaneously occurred with the surge for the formal independence of the Northern regimes.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：考古学
科研費の分科・細目：史学・考古学
キーワード：五胡十六国、北魏、魏晋南北朝、製作技法、考古学、東洋史、俑

１．研究開始当初の背景

本研究が対象とする五胡十六国時代～南北朝時代は文献史学、美術史学、考古学の各分野において、近年急速に注目を集めている。文献史学では国家論や国家形成論に着目した論攷が発表されている（松下憲一『北朝胡族体制論』、2007）（堀敏一『東アジア世界の形成』、2006 など）。また出土資料を対象とした研究では 1980 年代後半に先鞭がつけられたものの（張小舟「北方地区魏晋十六国墓葬的分区與分期」『考古学報』1987-1）、昨今の新資料をあわせて再検討の余地がある。また、五胡十六国時期から南北朝時代に至る時期はこれまで混乱期とされることが多かったが、この時期の文化的水準の高さが評価されて米国、香港、日本、中国、韓国で国際的な展覧会が開催され（曾布川寛編『中国　美の十字路』、2005 ほか）、国際論文集も刊行されている（『漢唐之間文化芸術的互動与交融』、2001 ほか）。

以上のように昨今急速に活発化している当該時期の研究も、考古学的研究においては資料数が少ないことが起因して、研究の進展をみることは殆どなかった。

ところが、近年になって陝西省を中心として五胡十六国墓の発掘と報告が相次ぎ、また山西省にあっては北魏時期とされる資料が急速に増加するなど、当該時期の資料増加が目覚ましく、それらの整理検討が広く求められていた。

俑の一例（五胡十六国時期）

俑の一例（北魏時期）

２．研究の目的

本研究では、五胡十六国時期から副葬品の主要品目となる陶俑に着目する。陶俑はその時代の社会や制度、風俗を鋭敏に反映する資料であり、かつ俑を伴う古墓にあってはその時期決定のための指針となるからである。そこで陶俑の制作技法や組合せ、服制などを分析し、型式学的な編年体系の確立を基礎として、北魏が華北を統一する過程を考古学的に検証する事を本研究の目的とする。

３．研究の方法

研究初年度は山西省大同市及び太原市を中心として、5 世紀代の資料の調査を実施する。２年目は陝西省西安市及び咸陽市を中心として、４世紀～５世紀初頭の資料の調査を実施する。調査対象資料は主に古墓出土の陶俑である。調査は肉眼観察とデジタルカメラによる記録を中心とし、製作技法や造詣上の時代特性を整理する。研究の成果は学会での研究発表、投稿論文、および九州国立博物館において展示公開する。

４．研究成果

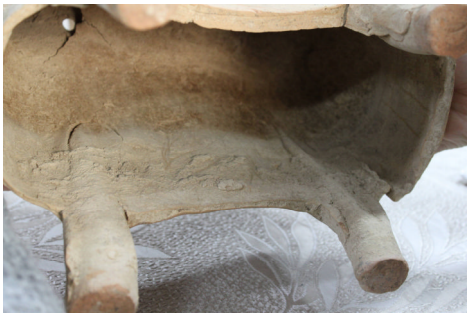
中国の五胡十六国時代から北魏時期にかけては，多くの胡族がさかんに政権樹立を成し遂げた時期であり、また文化芸術や諸制度が成熟をみた時期でもあった。

この時期に関する研究は，日本古代の文化を東アジア史の中で位置づけようとする際に必須のことのきない比較領域となるものである。

しかし，当該時期の出土資料はその前後の時期と比較して数量のうえで十分とはいえず，考古学的研究は立ち遅れていた。

本研究では，近年報告が相次いだ五胡十六国時期と目される出土陶俑について，組み合わせ等から所属時期を検討した。

資料調査では資料の実見を基本とし、制作技法や表現方法の把握につとめた。これらは各資料の帰属時期を決める際に重要な要素であるが、これまでの研究では積極的に進められてこなかった点である。



陝西省考古研究院での資料調査

固原博物館での資料調査

近年のまとまった報告である『咸陽十六国墓』では，報告された４墓地に対する編年案が示され，前秦時期の資料を最も新しく位置付けた。しかし，本研究の検討によって，それよりも新相を示す資料があることを明らかにした。

また，俑の組み合わせの大きな変化が，4世紀末葉におとずれることを明らかにした。この変化は鼓吹騎馬俑の登場などを大きな特徴とする。これは前秦政権が淝水の戦いで大敗したのち，北方諸政権の自立機運が高揚するなかで，俑の編成においても北方諸族の特性がより明瞭に示されるようになったためと考えた。

さらに北魏時期の古墓の調査事例をあわせて検討した。その結果，華北統一を果たした北魏が，その過程において，他の地域ないしは政権の習俗・習慣・制度を取り込んでいく状況を看取するに至った。

本研究の成果を図化しまとめたものが以下の図１と図２である。当該時期の資料の年代把握は、遠隔地の資料との比較などを通して行われることが多かったが、本研究では近隣地区の資料の相互比較をもとに編年案を再構築した。その結果、俑の変化過程が明瞭に浮かび上がることとなった。

図１は、咸陽地区の資料である。

上２段が３世紀前半の資料で、図中最古相をしめす。その後、俑の編成に大きな変化が認められるのが４世紀末であり、それが図最下段の資料である。馬上の楽隊が加わるなどの変化がある。さらに馬のタテガミにおいては前段階までの馬が短く切りそろえているのに対し、この段階には片側へまとめて垂下させるなど、のちの北魏時期の俑につながるような変化がみられる。

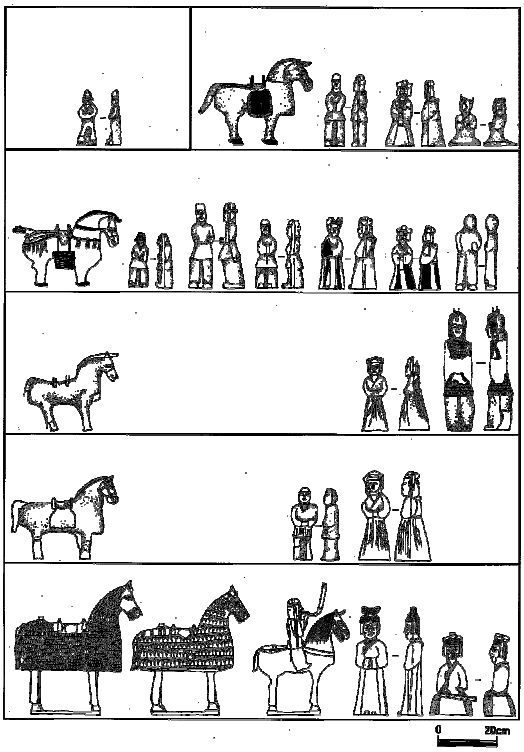


図１．咸陽地区の俑

次頁図２は、固原地区と西安地区の資料である。

最上段の資料は固原地区の資料である。咸陽地区の俑群と楽隊編成が異なることから、ことなる政権に属する一群であると推測した。その下が、ほぼ同時期の西安地区の資料で、時期は固原地区の資料と近いと判断した。下２段は引き続き西安地区の資料であるが、北魏時期初頭と考えられる一群である。時期は５世紀前半代。この北魏時期の資料は、４世紀後半の十六国時期の俑の特性を継承し

ながらも服制の変化であったり、施釉俑が登場したりと、新たな展開をみせる。

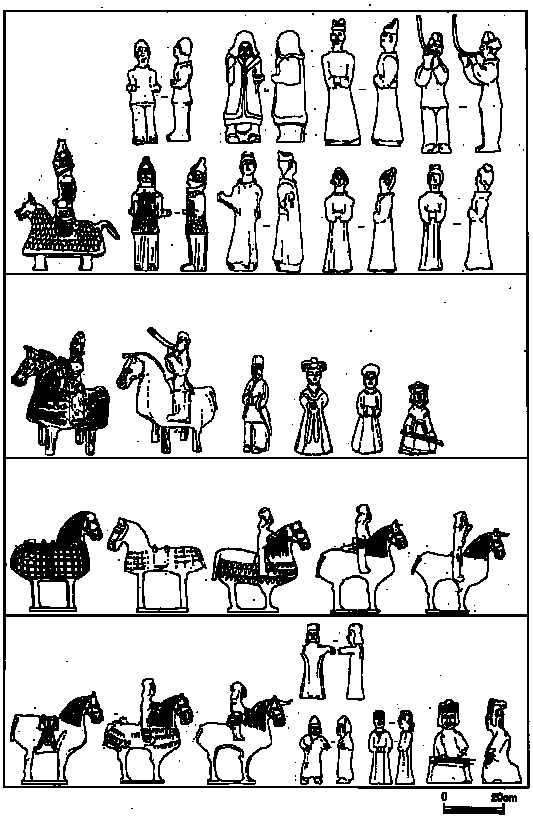


図２．西安地区、固原地区の俑

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
市元塁「五胡十六国から北魏時代の装飾馬」（『馬　アジアを駆けた二千年』九州国立博物館、2010、査読無）

〔学会発表〕（計２件）
①市元塁「北魏平城期騎馬文化の一端－司馬金龍墓出土の鉄製鐙の紹介」（福岡金属遺物談話会、2009 年 10 月 9 日、九州国立博物館）

②市元塁「北周墓の出土品にみる北方胡族的要素」（日本中国考古学会九州支部会第 45 回例会、2009 年 6 月 6 日、九州大学）

６．研究組織
(1)研究代表者
市元　塁（ICHIMOTO RUI）
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館　学芸部企画課特別展室・研究員
研究者番号：４０４１６５５８

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：